

「河合文化教育研究所」設立趣意書

河合塾は昨年、創立五〇周年を迎えた。これも、ひとえに皆様方のよき御指導、御厚情の賜物と深く感謝いたしております。

これまでの半世紀を土台に新たな半世紀へ踏み出すにあたり、幅広い教育活動を目指して、このたび「河合文化教育研究所」設立の運びと相なりました。この研究所は、皆様の御協力を得て、現代の青年たちを取りまく混迷する社会、文化、教育などを多角的に研究、解明するための広範な活動を推進する母体となるものです。講演会やシンポジウム、あるいは独自の研究活動など、分野、手法を問わず、積極的に取り組んで行く考えです。

これまで、私ども河合塾は「本音の教育」を追求すべく全力を尽くしていました。その実践の中から塾生や教官の期待する様々な文化活動が生まれました。最近では塾外の研究者、学生、社会人の皆様から力強い御支援を頂ける内容となつてまいりました。（最近の主な活動については別添の資料をご参照ください）

これらの文化活動は、河合塾または懇談会組織で運営してまいりましたが、今回、皆様の発意に基づいて発展的に改組し、有識者の方々にも御参加願つて「河合文化教育研究所」を設立することに相なつたものであります。

私どもは、皆様の御指導を頂きながら、塾の理念である「汝自らを求めよ」の精神にのつとり、着実に研究活動、文化活動を推進してまいる所存であります。そして、その成果を日々の教育活動の中に最大に生かしてゆくことが使命と考えます。

引き続き今一層の御支援、御指導をお願い申し上げます。

昭和五十九年十一月

河合文化教育研究所設立発起人

代表 河合 純人

予備校にも「文化の時代」!?

河合塾が研究所 講演やシンポ

新設された全国的組織である
「日本学術法人河合塾（名古屋市中区）」が、文化・教育など
のための活動をはじめ
七十六回、「河合塾文化教育講話
兌話」（河合塾人所蔵、河合塾
千葉校内）を創立した。塾創立

五十年生誕記念の設立記念式典が、
開催され、シンボルマークとして、
ここに記念式典の写真、一部の記念
文を掲載します。

今年八月には「アーティスの精神が
折医などと並んで、東京で「田
本の心・トライベッズの心」を題し
たシンポジウムを開いた。文化
教育研究会の設立により河合
塾長「講義の中止、他の研究

記念行事として、研究所は十
九日㈯の京都で行われる「国際
シンポジウム」に出席。約一百
び十ヶ国語のパロディ、日本
本」が発表され、そのシンポジウム
に参加する。会場は、金閣寺を招

冬子が、轟井處男の御用仕事に付いていたが故に、その下に書類などがある。この中でアババイヤークルーフを譲り受けた。

一、国際化の進展による多様な文化の交流、これによる市長のジャン・ルメール氏の訪問参加。入場無料で、題に「世界の先進、国際芸術」(英語OHM)。

もつたふじの人が何人なん。」が、一十五回目で「おまかで」といふのが、これがおじやの連続をつづける。しかも「貴君の頭角くぐりへや世間」を序起つてから、つかたが、今後は専らの研究者。

サンペロエ第三大勢教授ジャック・ブルーストローの特別講演「ヒューリッドロの今田塾」。午後一

“文化の旗手”にも意欲

予備校新機軸 河合塾が研究所

予備校が文化の領域に興味をもつた。本来は大学進学をめざす受験生のために設立された予備校が学者、文化人を中心として文化イベントを企画・実行していく研究会閣を十七歳で設立した。名古屋に本部を置く大手予備校・河合塾の主體じし、「河合文化教育研究所」(代)、河合城人(河合塾の沿革)がそれで、第一弾は京都大学やフランス大使館と手を結んでの国際シンポジウム。文化のはじめについて

国際性にしてこそ、われわれの知
古廟。果たして予備校が活性化の先駆をなすのか。
同予備校は創立五十周年を迎えた昨年、NASA(米航
空宇宙局)の宇田川洋行士、J.
R.ルースマ博士の講演会や、
フランスの精神分析医と日本
の学者を招いての国際シン
ポジウム「日本の心・フランスの
心」などを開催。しかしながら
まの複雑多岐にわたる現代に
あって何が單純化され、文化教育
活動を開拓していくべき困難さ
と判断。今回たゞさるの筆者
は、文化人に呼びかけて活動
の推進団体としての同研究所
を設立した。

好んでいた日本の日本の大
学に欠けていた部分を予備校
で穴埋めをしようと云う訳
で、ひいては東洋地方の文化
水準をアップさせていきた
いと抱負を語っている。

[View Details](#) | [Edit](#) | [Delete](#)

河合塾が文化教育研究所開く

国際シンポなど開く

リーナ古屋」を開く。

昨年、創立50周年を迎えた河合塾は、これまでに来航

空宇宙局の宇宙飛行士の講演

など多彩な文化活動を繰り広げてきた。名古屋の国際性や

文化性を高め、文化活動を進

めるため学者、文化人やマス

コミ関係者など域外の有力者

を理事に迎え、文化教育研究

所を開いた。初代理事長は河

合塾長で、事務局は名古屋

が千種区今池の河合塾千種

校内、東京が渋谷区上原三の

同塾校内に置く。四十数

万人の同塾卒業生や児童のあ

る市民を対象に会場を尋ね、

行事の案内を送る。

今後の事業として国際的な

シンポジウムのほか、学者に

教育、文化に関するテーマを

与えて研究、発表してもらつ

たり、禅と西洋哲学の比較、

英文学と英語教育の問題など

を掘り下げる計画。

二十五日午後二時からのシ

設立を記念して二十五日、同

市千種区の愛知県産業貿易館で

日仏の著名学者による国際シ

ンボジウム「青年の現在」ハバ

大手予備校・河合塾(本部)

名古屋市千種区、河合誠人

理事長が、総合教育機関への

脱皮を目指して十六日、河合

文化教育研究所を設立した。

二十一年の河合塾は、

河合誠人

理事長が、総合教育機関への

脱皮を目指して十六日、河合

・ブルース教授や中川久定
・京大教授を講師に「百科全書」
の主な監修者で「フランス哲学
者のティドロを通して現代の
青年問題を浮き彫りにする。
理事は次のみなさん。
浅井謙一(名古屋市立博物館
長)、岡谷康治(岡谷鋼機社長)、
海部俊樹(衆議院議員)、加藤巳一
郎(中日新聞社社長)、作家坂上坂
冬子、鈴井良朗(三省堂社長)、高
橋(河合塾理事)、竹田弘太
郎(名古屋鉄道会長)、田中精一
(中部電力社長)、長谷川栄一(御
大学教授)



なごやかに交歓授業をする
フランス学者と塾生

仏学者と交歓授業

河合塾 塾生と仏史を質疑応答

塾生と交歓授業を行った。

斌人代表)主催の「日仏シン

ボジウム」が、二千五百回か

れるが、同シンボジウムに参

をはじめ学者、劇作家ら七人

は、塾生約四百五十人が出席し

加するフランスの学者らが二

十四日、千種区の河合塾千種

校を訪れ、太学受験を圖ります

一次試験の問題に沿った近代

フランス史の小問について特

ムは、現代の青年像を浮き

彌にする「青年の現在」パ

リーナ古屋」のテーマで、中

学の質疑討論で午後、時

別講義したり、塾生の質問に

答えたりした。

一行を代表して、シュイエ

・パリ第三大学教授(元同大学長)

に触れたあと、金賞がリラッ

クスムードで通訳を交え質疑

応答。塾生も軽妙なジョーク

を飛ばし、爆笑が相次いた。

なお、「日仏シンボジウ

青年の実態浮き彫り

日仏シンポ開く

両国学者
19人参加

フランスと日本の学者によ
る国際シンボジウム「青年の現
在」(河合)

59.11.26 中日新聞

59.11.25 中部読売新聞